

【基盤研究（S）】

人文社会系（人文学）



研究課題名 マルチアーカイブ的的手法による在外日本関係史料の調査と研究資源化の研究

東京大学・史料編纂所・教授 ほうや とおる 保谷 徹

研究課題番号：26220402 研究者番号：60195518

研究分野：日本史

キーワード：海外史料、歴史情報学、デジタルアーカイブズ、研究資源化

【研究の背景・目的】

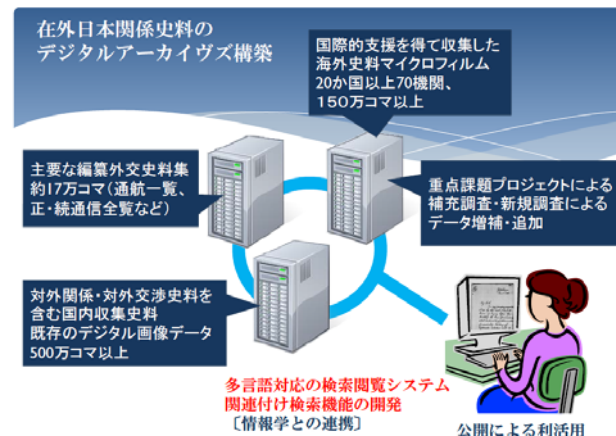
東京大学史料編纂所では、1930年代から在外日本関係史料の調査・収集を開始した。戦後は国際学士院連合等の支援を得てマイクロフィルムによる収集をはかり、不十分だったロシア・中国方面も研究代表者らのプロジェクトによって系統的な調査・収集を実施している。

本研究では、東京大学史料編纂所が所蔵する主として16世紀から19世紀末頃までの海外史料マイクロフィルム（20か国・70機関以上、約150万コマ）をデジタルアーカイブ化し、多言語対応可能な閲覧検索システムの開発を行うとともに、国内に所在する対外関係・対外交渉史料を含む採訪史料群（約500万コマ）や主要な編纂外交史料集（清書本・写本）を収め、海外史料と国内史料を関連付けて横断的に検索する機能の開発を検討する。さらに在外日本関係史料の重点的な調査・収集と分析にもとづき、日本史を世界史的視座から見るマルチリンガル、マルチアーカイブ的なプロジェクト研究を推進する。かかる研究を通じて史料の補充と新規収集を進め、構築したデジタル研究資源の蓄積と活用につとめて、これを新たな学術資源としてひろく市民・研究者へ公開し利活用をはかることを目的とする。

【研究の方法】

海外史料マイクロフィルム約2800リール・150万コマをデジタル化し、対外関係・対外交渉の編纂史料集のデジタル撮影データ約17万コマとともにファイルサーバにおさめて、検索のために必要なメタデータの作成・付与作業をおこなう。そのためのサーバシステム一式を調達し、史料リポジトリ機能の開

発など、デジタルアーカイブズを構築する最適化研究を実施する。次に、多言語対応機能や、国内史料や海外史料を横断的に検索し閲覧するための機能の開発をおこなう。また、データの蓄積・充実をはかるため、9つの重点課題をもったプロジェクトチームを設け、在外日本関係史料の補充・新規調査と収集、マルチリンガル、マルチアーカイブ的な史料研究プロジェクトを実施する。海外諸機関と共同研究を行い、国際研究集会を開催して成果を発信する。



【期待される成果と意義】

海外に所在する史料をターゲットにした重点研究には、インパクトのある成果が期待できる。国内史料と海外史料（外国語史料）を横断的に検索可能とするデジタルアーカイブズの構築は、学界へ新たな研究資源を提供し、世界史的視座に立った日本史研究の進展に資することになる。この分野での若手研究者の養成にも貢献する。また、海外との研究交流、共同研究の展開にも大きな意義をもつ。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

（共著）科学研究費補助金基盤研究（S）『史料デジタル収集の体系化に基づく歴史オンтоロジー構築の研究』成果報告書（研究代表者：林譲）、東京大学史料編纂所研究成果報告、2013年
（共編著）『世界史史料』12、日本と世界、岩波書店、2013年

【研究期間と研究経費】

平成26年度～30年度
158,200千円

【ホームページ等】

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>

